日本最強の呪術師・浄蔵貴所と父の三善清行

三善氏は、古代～室町時代の学問の家。ルーツは百済族、漢族があり、天武13年(684)の八色の姓(やくさのかばね)制定では、真人(まひと)朝臣(あそん)に次いで高位第3位の宿禰(すくね)姓でしたが、平安時代中期に三善清行様が出て、文章博士となり、朝臣姓を賜わりました。

①生誕

≪三善清行≫様は、承和14年(847)～延喜18/11/22(919/1/1)か、延喜18年12月7日没なので、グレゴリオ暦919年1月16日没　戊寅 丙午 赤口 月曜日

今年は、没後1100回忌です。

≪浄蔵貴所≫様は、文章博士の三善清行様の八男。
一説に母は嵯峨天皇の孫で、天人が懐中に入る夢を見て、浄蔵様を身ごもったといいます。
寛平3年(891)3月8日誕生。その時、虹色に輝き花の香りが漂ったそうです。
わずか4歳で千字文を読まれました。

②浄蔵様が7歳の春に出家を望んだ時、

「三宝(仏・法・僧)に入りたいのなら、一つの霊力を示しなさい」と言われ、浄蔵様は天に向かって念じられ、庭に咲き誇っていた梅の一枝を、両親の前に手を触れる事なく手向けられました。

御屋敷の人々は、みな浄蔵様の力に驚き、誰も出家を止められませんでした。

7歳の時の葛川で修行を始め、
12歳の時、宇多法皇に見出され弟子と成りました。13歳の時稲荷山深谷に難行苦行し、熊野に詣で、19歳で横川苔洞に塾居し、23歳で大峰に入り、24歳で葛木山に入り、25歳では那智山に隠居し3年間苦行されました。

宇多法皇の暮らす仁和寺近くの般若寺(現:廃寺)には、33歳～40歳に定住していたことが「大法師浄蔵伝」に記されています。
49歳の夏には白山、やがて、熊野・金峯山などの霊山を遍歴して苦行を積まれました。

③三善清行様と菅原道真

清行様は、一度、官吏の登用試験に落ち、
この時の試験官が菅原道真だったことで、後に対立されます。
藤原時平と敵対し朝廷内で孤立していた右大臣 菅原道真に対し、
清行様は書簡にて辞職勧告を出されました。道真は、長年の確執からこれを退けます。

そして道真は、時平による讒言(醍醐天皇を退け、道真娘の嫁ぎ先の醍醐天皇の弟:斉世(ときよ)親王を皇位に就けようと謀った嫌疑)により、大宰府帥(だざいふごんのそち)に左遷され、子供4人も流刑に処されてしまいました。

清行様は、時平に指摘します。道真の関係者を全て連座させると、朝廷が機能停止に陥ると。
そして、処分を菅原道真の親族と宇多上皇側近のみに留めさせました。

清行様は、道真の子 菅原高視の失脚により、後任として大学頭を兼任しました。
延喜3年(903)2月25日、道真は無念のうちに大宰府で死去し、同地に葬られました。

その後、京都では落雷などの天災が相次ぎ、菅原道真の祟りとの噂が広まります。

④藤原時平

延喜９年(909)「扶桑略記」によると、19歳の浄蔵様が父:清行様から呼ばれ、
病んだ藤原時平の怨霊を取り除く加持祈祷をしますと、
２匹の青龍が時平の左右の耳から頭を出しました。青龍に姿を変えた道真の怨霊でした。

青龍は清行に告げました。
「我を無実の罪に陥れた時平を懲らしめている。しかし貴方の子:浄蔵の念力は、我を超えた。
浄蔵を遠ざけ、願くは時平に厳しい戒めを加えて懲らしめよ」と言われました。

清行様は菅霊の意志を尊重し、浄蔵様が祈祷を中断しその場を立ち去ると、
時平は間もなく死んでしまいました。

⑤清行山三善院浄蔵寺の建立

菅原家が信心していた吉祥天女と、幼い道真公が諸病平癒誓願の『十一面観世音菩薩』を共に崇拝し詣でていたので、
道真公没後６年の延喜９年(909)、清行様・浄蔵様の二人で、十一面観世音菩薩の尊容(=お顔)に
七寶(金,銀,瑠璃,玻璃(はり),蝦蛄(しゃこ),瑪瑙(めのう),珊瑚)を喜捨(=寄付)し、建立されました。
三善清行様の名を山号に《清行山》、院号を《三善院》、寺号には初代住職となられた浄蔵貴所様から《浄蔵寺》とされました。

⑥一条戻り橋

浄蔵様は25歳にして那智山に隠居し修業していました。
29歳の時、清行様が亡くなったとの知らせが入ります。(延喜18年12月7日(919.1.11)没。72歳)
浄蔵様は、急いで下山し都に向かいましたが、すでに死後５日が経ち、堀川五条の清行様のお屋敷から、葬列は出発した後でした。
浄蔵様は堀川沿いを北上し、土御門橋の上で葬列に追い付き、棺に泣きすがりました。
そして浄蔵様が、その場で加持祈祷をしますと、なんと、なんと、清行様は息を吹き返しました。
その日から、堀川に架かる土御門橋は、『戻り橋』と呼ばれるように成りました。

現在の『一条戻り橋』の位置は誤りで、中立売と土御門大路間に架かる橋が正しい『戻り橋』です。

さて清行様は、その後一週間生き延びたとも、３年間生きたとも伝わります。
陰陽道に長けていた清行様は、実際に亡くなった時、蓮台野で火葬されましたが、
念仏を唱える舌だけは燃え残りましたので、清行様も凡人では無かったと伝わります。

⑦平将門の調伏

天慶３年(940)正月、勅命により平将門の乱を調伏するため、延暦寺横川にあった首楞厳院(しゅりょうごんいん)で三七日(みなのか/21日間)の≪※大威徳法≫を勤行し、乱を鎮め降伏させました。

※憤怒の姿で、上半身は黄色、下半身は黒色、牛角と三つの牛眼と十八本の腕を持ち、利剣や金剛杵や弓などを持っている≪大威徳明王≫の力を借りて怨敵を調伏する呪殺法で、大独鈷印(だいとこのいん)を結んで
「オン シュチリ キャラロハ ウン ケン ソワカ」と一万遍唱え、人形を作って釘を打ち付けると、
対象者は急病となって喀血して死ぬのです。

その時、平将門は燃えさかる炎の上に立ちはだかり、僧兵らは恐れましたが、流矢の音が聞こえた後、東を指し飛び去って行きました。